

心理的効果による快適な部屋づくり

仙台第三高等学校

A5班

背景

・近年、QOL(クオリティオブライフ)という言葉が重要視されているため、自宅での生活を良くすることで生活の質を向上させようと思ったから。

・自宅についての不満は多くの人を持っており、日常的な会話でも話題に上がってくる。

・社会の情報化、機械化、AI化などの近代化が急速に進む今、家にいる時間は増加して行くのではないか。

探究研究内容・目的

・住宅の不満や、人間の心理的影響による感じ方などを調べる。

・屋内環境と人の住宅に対する満足度を調べ、心理学などと照らし合わせて、快適な住宅を提案する。

<仮説>

自宅への不満は、最も長い時間過ごす自室に多くあり、それらの不満は壁や天井の色を変えることで解消されるのではないか。

調査・実験の方法

1. 自宅についての満足度調査アンケートを実施して、データを取る



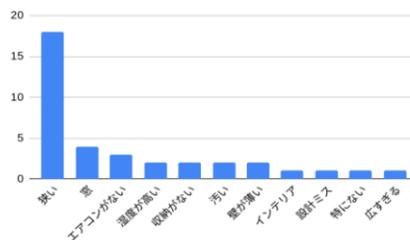
2. 1の結果と論文などから集めたデータを照らし合わせて、心理的効果により人々が快適に暮らせるような家の条件を調査、考察する(今回の調査では部屋の色による広さの感じ方について部屋制作シミュレータを用いて調べる)



調査・実験の結果・考察

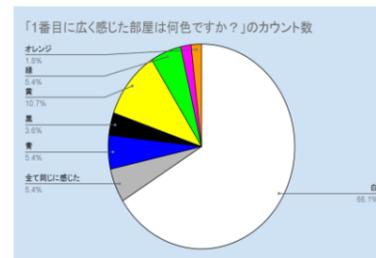
「自宅についてのアンケート」

1. 自宅満足度(1~7) 2. 不満のある部屋について



1. 2. 3のアンケートにより、今住んでいる自宅に不満を持っている人が多く、中でも不満を持っている人が多いことがわかった。更に自室が狭いと感じている人が多いということもわかった。

部屋制作シミュレーターを使い、8色(白、黒、赤、青、緑、紫、黄、黄赤)の部屋サンプルの広さの順番を答えてもらうアンケートを作成(高校生58名)



一番広く感じた部屋の
←アンケート結果グラフ

論文では赤く紫く青く緑く黄く黄赤(広い順)の順番であったが、アンケートでは黒く紫く緑く赤く青くオレンジく黄く白(広い順)という結果が得られた。このように論文とアンケートはほとんど同じような結果になったと言える。また、論文では調査されていなかった無彩色の調査も行い、白が1番広く感じさせ、黒が一番狭く感じさせるという結果が得られた。

まとめ

・調査によって自宅への不満は自室に多くあり、中でも大半の人の不満である部屋が狭いという問題は部屋の色を明るい色(白や黄、オレンジなど)に変えることで、心理的に部屋を広く見せることができるため解消されることがわかった。

・逆に、黒や紫、青などの色は圧迫感を与える色であるため、部屋を狭く見せてしまい、心理的に快適ではないことがわかった。

参考文献

[1]「空間の色彩がヒトの広さ・狭さの印象に及ぼす影響について」山本真知子-日本色彩学会誌, 2018-jstage. jst. go. jp